

第3章 英作文助っ人表現編

筆者が個人的に〈英作文助っ人表現〉と呼んでいるものが十数個ある。筆者の英作文の指導の主眼は、“なるべく平易な単語・表現を使って口語体的に自然な英文を作り出す”ことにある。口語体にこだわっているのは、口語体は文語体も含むが、文語体は口語体には成り変わらないからである。しかも、文語体で慣らせると、抽象名詞を多用することになり、日本人の苦手な可算名詞か不可算名詞かという問題や冠詞の壁にぶち当たることになる。そこで、なるべくなら口語体で慣らしておいた方が、いざという時の機転が利くからである。そうした英文を作り出すのに協力してくれるのが、いわば〈英作文助っ人表現〉である。この章ではこれらを具体的に見ていきたいが、先にメンバーを紹介しよう。

- ① **how** ☞ 名詞が浮かばない時、抽象名詞を避けたい時
- ② **what** ☞ 名詞が浮かばない時、抽象名詞を避けたい時
- ③ **in a(n) + 形容詞 + way** ☞ 副詞が思い浮かばない時
- ④ **there is** 構文 ☞ 動詞が思い浮かばない時
- ⑤ **really** ☞ 強調語が思い浮かばない時
- ⑥ **everything**
- ⑦ **disappear**
- ⑧ **influence**
- ⑨ **play a 形容詞 role in ~**
- ⑩ **get A out of B**

このうち⑩だけは京大の過去問で使う機会がなかったため、ここで紹介しておく。「どんな人と話をしても、かならず勉強になる」を英訳してみよう。

- (a) Whoever you talk with, you can always **get something out of it**.
- (b) There is always **something to get out of** whoever you talk to.

get A out of B の A には **something / a lot / more** などの数量を表す語句が来る。日本語でも「～から何かを得る」や「～から得るものが多い」と言うので使いやすい。これは **learn A from B** で書き換えられる場合が多い。